

2011年度

科目名	倫理学概論B			
担当教員	林 進			
配当	文財2・人社2		コード	54036
開期	後期	講時	金曜日4限	単位数 2
授業テーマ	ヨーロッパの倫理思想概観			
目的と概要	ヨーロッパの近・現代を中心に倫理思想を概観する。とくにカントに代表される近代道徳論と、その近代の道徳価値に対して批判の刃を向けたニーチェの反道徳論とを両輪にして、実存主義あるいは功利主義やプラグマティズムの道徳思想を説明し、さらには啓蒙の弁証法や構造主義などの思想にも触れながら、ポストモダンの問題を考察する。			
成績評価法	学期末のレポート(50%)と平常点(50%)で評価する			
テキスト	プリント配布			
参考書	授業の中で紹介する			
履修に当たっての注意・助言/準備学習	知への愛と欲をもって授業に臨むこと			
講義計画				
第1回	カントの道徳論——自由と善意志			
第2回	ヘーゲルの人倫（1）——絶対精神と弁証法			
第3回	ヘーゲルの人倫（2）——国家と自由			
第4回	実存主義（1）——キルケゴールの「単独者」			
第5回	社会契約説——ホッブズ、ロック、ルソー			
第6回	功利主義——ベンサムとミル			
第7回	社会主義とマルクスの思想			
第8回	ニーチェの道徳批判（1）——道徳の歴史的起源			
第9回	ニーチェの道徳批判（2）——道徳の心理的起源			
第10回	ニーチェの道徳批判（3）——超人道徳			
第11回	プラグマティズム——パース、ジェイムズ、デューイ			
第12回	実存主義（2）——ハイデガーとサルトル			
第13回	啓蒙の弁証法——アドルノとホルクハイマー			
第14回	構造主義——レヴィ＝ストロース、フーコー、バルト			
第15回	まとめ			